

12) 『病草紙』の条文に関する考察

Studies on the Yamainosōsi

医の博物館 ○西巻明彦
日本歯科大学 屋代正幸

Akihiko Nishimaki, *Museum of Medicine and Dentistry*
Masayuki Yashiro, *Nippon Dental University*

『病草紙』は、いかなる意図で描写されたのか現在では不明である。21 図現存しているが、条文に対して、絵が描写されている。黒鼻の父子では、「大和国平群のこほり、幸山といふところに、おとこあり。はなのさき、すみをぬりたるやうに、くろかりけり。子、孫子、あひつぎて、みなくろかりけり」という条文に対して、絵画は下級武士一家の様子が描かれている。主人と思われる武士と子供が2人、女房と赤ん坊合計で5人描かれ、女房以外人間はすべて鼻が黒く描写されている。子供が2人ザクロを食しているが、『医心方』にザクロの食べすぎは歯が黒くなる記載があり、この絵と対応する。この黒鼻が、スミを鼻に黒く塗ったためなのか、黒子の遺伝的な現象なのか、または癌性に転化してしまうものなのか、この条文からははっきりしない。

また、口臭の女では、「宮こに女あり。みめかたち、かみすがたあるべかしかりければ、人ぞうしにつかひけり。よそにみるおとこ、こころをつくしけれども、いきのか、あまりくさくて、ちかづきよりぬれば、はなをふさぎてにげぬ。ただ、うちゐるにも、かたわらによる人は、くささたえがたりけり。」と記され、歯周病の男では、「おとこありけり。もとよりくちのうちのは、みなゆるぎて、すこしもこわきものなどは、かみわるにおよばず。なまじゐに、おちぬくることはなくて、ものくふ時は、さはりてたえがたかりけり。」と記述されている。この中では病状説明だけで、治療

方法については述べられていない。つまり、この『病草紙』をみる観者が、後白河法皇を中心とする貴族階級であるならば、治療方法は、医師でない以上必要はない。

また、肥満の女では、「ちかごろ、七条わたりにかしあげする女あり。いゑとみ、食ゆたかなるゆへに、身こえ、ししあまりて、行歩たやすからず。まかたちのおんな、あひたすくといへども、あせをながしてあえたく、とてもかくてもくるしみつきぬものなり。」と、この条文だけでも成立する説話的である。病草紙製作にあたり、絵画を作成した後に条文をつけたのか、条文を絵画化したものなのか見解のわかれるところであるが、大和国や都などの地名がでてくるところから、もととなる文章が存在したと演者らは考える。また、近頃、中頃などの時間性をしめす語句も存在する。

また、霍乱の女では、「霍乱といふ病あり。胸の内、苦痛刺すが如し。口より水を吐き、尻より痢を漏らす。悶絶顛倒して、真に耐え難し。」、重舌のある男は、「重舌といひて、舌の根に小さき舌の様なもの、重なりて生い出づることあり。病重くなりて生い出づることあり。病重くなりぬれば、腹には飢ゑたりと雖も、咽喉飲食を受けず。重くなりぬれば、死ぬるものなり。」と、病名、病証のみを記した条文も存在する。

以上のように、『病草紙』の条文はいくつかの傾向があり、今回条文を通して、『病草紙』の考察を行った。